第99回薬剤師国家試験本番直前講座 ～最終チェックポイント～

薬学教育が６年制に移行し、３回目となる薬剤師国家試験（99回）が、３月１、２の両日で実施されます。１回目の６年制の薬剤師国家試験（97回）に比べて、２回目の98回は「考える力」を問う問題や「問題抽出」「解釈」「解決能力」を問う問題が多く、難易度の高い試験であったと言えます。総合格率79.1％と97回より低くなり、知識問題（暗記）だけでは合格できない試験となっていました。

第99回薬剤師国家試験も同じ傾向での出題になると予想され、「基礎力」「考える力」「問題解決能力」の３本の軸での出題と考えると、難易度の低下は考えにくく、難しくなる可能性もあります。

今回は、第99回薬剤師国家試験に向けた「最終チェック」として、合格を勝ち取る直前期の取り組みや、これだけは勉強してほしいポイントを紹介します。

「薬剤師国家試験の概要」から見える合格のポイント

改めて、薬剤師国家試験の出題区分と出題数、合格基準、試験時間を確認していきましょう。

①合格基準

試験の出題は厚生労働省から出された「薬剤師国家試験出題基準」に沿った内容で出題されます。出題基準が記載されている参考書を用いてください。必須問題90題と一般問題255題の合計345題の出題です。試験領域は、「物理・化学・生物」「衛生」「薬理」「薬剤」「病態・薬物治療」「法規・制度・倫理」「実務」の７領域です。

合格基準は、（表１）で示すように『全問題への配点の65％以上』『必須問題は、全問題への配点の70％以上、かつ各領域の配点の50％以上（足切り）』『一般問題は、各領域の配点の35％以上（足切り）』となっています。足切りがなく225問以上の正解を受験生は目指す必要があります。

よく受験生から質問があるのは、「物理だけで足切りにはなりますか？」ということです。化学も生物も同様ですが、「物理・化学・生物」という３科目で１領域になりますので、物理だけで足切りになることはありません。

また、各領域の出題数は（表１）で示すように医療系（「薬理」「薬剤」「病態・薬物治療」「実務」）が215題であり、そのうち「実務」の出題は95題で、５年次から始まる「長期実務実習」の成果を確認する問題が多く含まれています。このように６年制の国家試験は、実際の医療現場で直面する問題などに特化したものであることが分かります。直前期は、出題数も多い医療系を中心に力を入れていくことが良いでしょう。

②試験時間を確認する

試験は、領域別に行うのではなく、薬学全領域を出題の対象として、「必須問題」と「一般問題」とに分け、さらに一般問題を「薬学理論問題」と「薬学実践問題」とした３区分で実施されます。

表１

薬剤師国家試験　合格基準

科目	必須問題	一般問題	薬学理論問題	薬学実践問題	出題数計
物理・化学・生物	15問	45問	30問	15問（複合問題）	60問
衛生	10問	30問	20問	10問（複合問題）	40問
薬理	15問	25問	15問	10問（複合問題）	40問
薬剤	15問	25問	15問	10問（複合問題）	40問
病態・薬物治療	15問	25問	15問	10問（複合問題）	40問
法規・制度・倫理	10問	20問	10問	10問（複合問題）	30問
実務	10問	85問	－	20問＋65問（複合問題）	95問
出題数計	90問	255問	105問	150問	345問

各50%　含35%　合格225問以上！　70%　65% 225問

※実践問題は、「実務」20問、及びそれぞれの科目と「実務」とを関連させた複合問題130問からなる

表２

薬剤師国家試験　試験時間

時間			問題区分及び科目	
第1日	9:30	11:00	必須問題試験	物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務
	12:30	15:00	一般問題試験（薬学理論問題）	物理・化学・生物、衛生、法規・制度・倫理
	15:50	17:45	一般問題試験（薬学理論問題）	薬理、薬剤、病態・薬物治療
第2日	9:30	11:35	一般問題試験（薬学実践問題）	物理・化学・生物、衛生、［実務］※
	13:00	14:40	一般問題試験（薬学実践問題）	薬理、薬剤、［実務］※
	15:30	18:00	一般問題試験（薬学実践問題）	病態・薬物治療、法規・制度・倫理、　実務、［実務］※

※［実務］※は、実務以外の科目と関連させた複合問題として出題されるもの

＊必須問題は1問1分　、一般問題は1問2.5分で解く

ます。

受験生の皆様に聞いてみたいのは、「いつまでが勉強時間だと思いますか？」です。「国家試験前日まで」でしょうか、「１日目の始まるまで」でしょうか。いいえ、違います。「２日目の最後の試験で、試験監督が筆記用具以外をしまってください」といわれるまでが勉強時間です。

（表２）に示すように、それぞれの休み時間には何を勉強するか、試験当日に持参する教材等は何にするかを決めておきましょう。最後の最後に『ココだけは必ず見る！』という“範囲”を用意しておくと良いでしょう。最後まで諦めないことが重要です。

次に、１問あたりにかけられる時間ですが、「必須問題」は１問１分、「一般問題」は１問2.5分で解く時間配分です。つまり、必須問題は５肢択一のやさしい問題ですが、一般問題は、暗記だけでなく理解力を必要とする問題が出題されることが分かります。

さらに言うと、初めて見た計算問題や化学の反応などを１問2.5分以内に解くのは難しい受験生もいらっしゃることでしょう。私が物理と薬剤を担当していることもあり、直前期の学生に言うのは『計算問題は最後に解きましょう』です。

文章問題も計算問題も同じ１問です。他には『薬剤の計算で時間を使いたいならば、薬理を早く解く意識を日頃から持ちましょう』です。そうすることで計算問題を考えることや見直しなどに時間を費やすことができます。どの試験時間にどの領域が出題される

いっしょに成長しよう。

医療が治療から予防へ大きく転換しようとしている今、
アイセイ薬局は「薬剤師の新たな可能性を探る」という、大きなテーマに着手しています。
それは、「すべての人の健康を守る」という事業。
薬物治療だけでなく、まちの健康ステーションとして、地域住民の健康を守っていく
「ヘルス・デザイン・カンパニー」へと生まれ変わろうとしています。
その道程には、自分の成長と企業の成長がつながってゆく醍醐味があり、
新しいカタチをいっしょに創りあげる楽しさがあります。
あなたなら、アイセイといっしょにどんな成長を描きますか？

新卒採用 2015 エントリー受付中！ http://aisei.co.jp/recruit/

全国275店舗以上の調剤薬局ネットワークと
業界トップクラスの医療モール開発実績　株式会社アイセイ薬局

AISEI